

## 6. 走塁妨害 (オブストラクション)

【定義】野手がボールを保持していないとき、またはボールを守備していないときに、走者の進塁を妨げる行為をいう。上記の「ボールを守備」とは、「まさに送球を捕ろうとし、ボールが野手に直接かつ十分に近くまできており、野手はそのボールを受ける位置を占めねばならなくなった場合」のこと。これは審判員の判断による。

なお、打球を処理しようとしている野手は保護され、走者側に避ける義務がある。しかし、だからといって走者を故意につまずかせるようなことをすれば、オブストラクションとなる。

### <走者に対してプレーが行われている場合>

【事例】ランダウンプレーで、そのときにプレーに関わっていない野手が走路上に残り、走者が妨害された、等。

【処置】妨害と判断した場合は、直ちに「タイム」をかけ、「オブストラクション」と宣告。ボールデッドとなり、妨害された走者は占有していた塁より1個の塁が与えられる。

(ただし細かい話だが、例えばオブストラクションが発生した時より前に投げられたボールが悪送球となり、デッドゾーンに入った場合はテイク2ベースとなる)

### <走者に対してプレーが為されていない場合>

【事例】二塁走者が外野ヒットで三塁に向かっており、遊撃手に進路を妨害された。または外野フライでタッチアップしようとしている三塁走者の前に立ち視野をさえぎった、等。

【処置】「オブストラクション」を宣告するが、タイムはかけない。プレーが一段落してからタイムをかけ、上記と同様処置を行うが、与える塁は以下のように審判の判断に依る。

例えば、外野を抜ける安打を打った打者走者が、一塁を回ったところで妨害されたが、そのままプレーは続き、三塁に進んだところでタッチアウトとなった。この場合、タイムをかけ、

①妨害が無ければ三塁到達できただろうと判断すれば、三塁を与える

②タッチアウトが妨害の影響はないと判断すれば、そのままアウトは成立する

【補足】走者は打球を処理しようとしている野手を避けなかったり、あるいは送球を故意に妨げた場合、守備妨害 (インターフェア) となり、妨害した走者及び打者走者はアウトとなる。

では、例えば相手チーム二塁走者が、遊撃手の守備位置に不自然に接近するようにリードをしてきて守備の邪魔になった場合はどうか？

- ・これだけをもって、守備妨害を取ることはできない。逆に牽制でアウトにするチャンスとみることもできる。ただし、打球処理するときはまだ継続された場合は上記インターフェアに該当し、アウトとなる。

- ・あまりに走路から逸脱した位置にいるならば、「進塁を放棄した」か「試合を愚弄した」としてアウトになる可能性がある。

以上